

令和2年度 環境局指定管理者評価委員会
議事録（7月17日開催分）

東京都環境局自然環境部緑環境課

○三浦課長 皆様、おはようございます。

定刻になりましたので、これから評価委員会の2日目として開催させていただきたいと思
います。

本日は、足元の悪い中、御出席賜りまして、ありがとうございます。先週に引き続きまし
て、自然公園担当課長の三浦が司会進行をさせていただきます。

本日につきましては、残り3施設の評価について、おおむね12時までお時間を頂いて評価
を頂きたいと思しますので、よろしくお願いいいたします。着座にて説明させていただきます。

審議に先立ちまして、本委員会の定足数について御報告いたします。

本日も委員5名中5名の出席がございます。「環境局指定管理者評価委員会設置要綱」第
7条の規定により会議は成立しております。

また、本会議の会議及び議事録の公開につきましては、設置要綱第9条第1項及び第3項
により原則公開となっております。

それでは、傍聴人を入室させます。

(傍聴人入室)

○三浦課長 早速ではございますが、ただいまより「環境局指定管理者評価委員会」を開催
させていただきます。

本日の議事につきましては、さきの7月10日に続き、ペーパーレスの会議とさせていただ
きますので、御協力のほど、よろしくお願いいいたします。

それでは、下村委員長、先週に引き続き、どうぞよろしくお願いいいたします。

○下村委員長 皆様、おはようございます。

今日は残りの3施設ですね。タブレットの調子は大丈夫ですね。

3件ですので、休みなしに一気に15分のプレゼン、15分の質疑、5分の評価という時間で
進めていきたいと思います。

それでは、早速参りましょうか。まずは、海のふるさと村です。指定管理は大島町です。
入室をさせていただきます。

(指定管理者入室)

○下村委員長 それでは、15分でプレゼンテーションをお願いいたします。10分と14分で合
図をいたしますので、めどにしてください。よろしくお願いいいたします。

○海のふるさと村担当 それでは、海のふるさと村の31年度の事業報告をしたいと思いま
す。よろしくお願いいいたします。

まず、平成31年度ですが、セントラルロッジ及びテントサイト利用者の利便性を向上させるため、キャンピングテーブルというものを新たに20基製作いたしました。こちらの製作にあたりましては、野営場等にテーブルがあるのですが、キャンプサイトの利用者数と数が見合っておりませんのでそれを補填する分と、景勝地となっている展望台等に今までキャンピングテーブルがあったのですが、それが老朽化している等々の理由によりまして20基を製作しております。

テントサイトの利便性向上についてということで、島ならではなのですが、秋・冬シーズンのテントサイトの利用者様の利便性向上を目的として、炊事舎の脇にあずまやがございます。こちらで飲食ができるようなスペースとなっているのですが、屋根だけある状態でしたので、暴風対策ということでビニールシートを設置しております。こちらは春・夏シーズンにつきましては、逆に暑くなりますので取り外しができる形を取っております。

新たなターゲットの開拓ということで、こちらのほうでテントサイトの底地が当施設は土でございます。そのため、雨が降りますとテント自体の設営が困難になる場所がございます。ですが、昨今のキャンプブームというものが始まっておりまして、それらに対応するため、新たな客層への対応を図るために、ウッドデッキをフリーテントサイト20区画中4区画分整備しました。このテントは6名定員なのですが、現状、デッキテントサイトの御利用のお客様は3名程度の御利用が目立っておりますので、対応策としても有効であろうということで、こちらを整備した次第です。

また、今回のキャンプブームに対応してなのですけれども、人気の高いテントを目玉として4種類購入して、見ても楽しいキャンプというものを令和2年3月の春休みシーズンから導入する予定でございました。ですが、新型コロナウイルスの関係で、3月1日から施設が閉鎖しておりますので、こちらは断念せざるを得ないという結果でございます。購入テントにつきましては、こちらの4点でございます。

活字だけだとどういうテントか分からないという考えで写真のほうも入れさせていただいております。上2つにつきましては、コットンテントでございます。その中でグランピングに使われるテントを選ばせていただきました。

また、下の2つのテントにつきましては、まずノースフェイスのテントは目を引くだろうと。インターネット上で紹介等々されているのですが、なかなか見ることのないテントですので、実際にお客様が購入の検討もできるのではないかという考えから入れております。また、中津さんのオートテントにつきましては、今、私どものほうで整備している常設のテン

トのミニチュア版のようなものになりますので、前例踏襲ではないのですが、こちらも入れております。

こちらのフリーテントの企画を展開する中で、テントだけではなくて貸出しの備品、調理器具、食器、運搬具でもちょっと見直しをしてみました。国内で購入のできるアウトドアメーカーさんのものをいろいろと選びまして、ロゴス、コールマン、スノーピークです。あと、最近はやっているのですが、スキレットはアメリカのロッジのものを入れております。こういうものも購入しないと、実際に自分たちで使ってみないと分からないというものが多いと思いますので、そういう意味も含めて今回整備をした次第です。

海のふるさと村アンケートへの対応ということでございます。

まず、苦情のほうです。セントラルロッジ内で虫の発生です。どうしても山林に囲まれている自然豊かな地域でございます。年2回、建物消毒の薬剤散布を行っているのですが、それだけだと自然豊かな関係でなかなか虫の侵入を防げないということで、市販の殺虫剤、燻煙剤を使用しまして、さらに2回の散布を実施しております。実施後について、虫の発生に関する苦情は見受けられなくなりました。こちらにつきましては効果がありましたので、令和2年度についても継続してやっていきたいと思っております。

また、景色がよいという御意見がございました。自然豊かな場所でございます。夜空がきれいなど皆様からお褒めの御意見をいろいろ頂戴しております。そちらをさらに引き伸ばすために、実は海の近くに展望台がございまして、そちらに設置されたアウトドアテーブルの1組が老朽化していた。先ほど御説明したところもございしますが、こちらを更新するとともに、1組しかなかったので2組にさせていただきました。また、展望台脇の芝生の広場みたいなところがございます。こちらもなかなかいい場所でございますので、こちらも新たにアウトドアテーブルを1つ置かせていただいております。

海のふるさと村の紙媒体の更新です。実は、開設当初から平成31年7月末ぐらいまでパンフレットの更新が抜本的にされていなかったという状況で、現実からかなり乖離をしておりました。ですので、こちらはデザイン構成から全て職員のほうで刷新をさせていただいております。

また、アンケートとか、お越しいただいたお客様からの御要望等を直接伺った中で、自然研究路という遊歩道がございます。こちらのルートマップというものがあるといいねというお声がございましたので、海岸・内陸ルートというものを実際に現地で調査しまして、ポイントとなる場所、景勝地やここはちょっと難しいなと判断の分かれるような、迷うような箇

所をもろもろ撮影しながら、また各ルートの安全性の確認をしてルートガイドというものを職員の手で作成いたしました。

続きまして、自然体験教室です。毎年度閑散期に実施しております自然体験教室につきましては、下半期から試験的に、従来のものとは違ったのですが、新規イベントを企画して実施しております。

まず、今年の1月1日、初日の出が水平線上から昇ってくるところを見られる場所がございまして、こちらも一つの観光資源になるのではと考えまして企画しました。参加者は14名です。

続いて、元旦と2日の両日なのですが、宝さがし大会というものを開催いたしました。実はお正月期間中、島内の観光施設等はございますが、なかなか行くところがないという島民の方の御意見等を事前に頂いておりましたので、こちらの企画をした次第です。

また、2月22日の浮き玉編みの体験というのは、漁師さんが昔からやっているガラス玉に保護編みを編むという体験を入れております。また、3月14、15日で企画をしておりました大島桜のチップを使ったベーコン作り体験は、やはり新型コロナに関しまして、中止となっております。

次は、お客様目線ということで、職員たちといろいろ話しまして、どういうものを直したほうがいいかとか、ここはちょっと手を入れたほうがいいねというものをもろもろ洗い出ししまして、直営施工をかなりやっております。ペンキやら左官やらもろもろやっております。

また、セントラルロッジ内なのですが、こちらもお客様目線で見直しをしまして、職員の手で実際にベンチの再研磨、防腐剤処理等々をしております。また、エアコン等の空調関係も整備しております。

以上でございます。御清聴ありがとうございました。

○下村委員長 どうもありがとうございました。

それでは、御質問、御意見に移りたいと思いますが、委員から何かございますでしょうか。いかがでしょうか。

近藤委員、どうぞ。

○近藤委員 まず、泊まったときの楽しみは食事だと思うのですが、今、食事はどんな状態になっているのでしょうか。

○海のふるさと村担当 お答えいたします。

現在、食事の提供につきましては、業者撤退が続いておりますが、また、新規の業者も見つけようとはしているのですが、実は要因としては、長期的にそこに入れるのか、やっていけるのかというところでやはり不安の声がありまして、なかなか見つけることができない状況でございます。

○近藤委員 あと、島で唯一のキャンプ場の利点を生かしていろいろ取り組んでいらっしゃるのですけれども、どういうところからお客さんが来られて、何を求めて来ているのかといったことはある程度把握されているのでしょうか。

○海のふるさと村担当 お答えいたします。

関東圏が主となっておりますが、今、客層が分かれております。まず、釣りをされる方はリピーターとなっているお客様でございますが、昨今増えてきているのですが、キャンパーの方です。特に、設備が整っているので、テントを持ち込んで区画だけ貸してくださいというお客様が増えております。ただ、その中でもやはり島ですと運んでくるのも大変なので、手ぶらでキャンプをしたいというお客様もおります。

割合としましては、釣りのお客様が3分の1、それ以外のお客様が残りという形になりまして、手ぶらでお越しになりたい方というのが比率としては徐々に多くなってきております。

○近藤委員 最初の食事なののですけれども、そうすると、今はどういうふうに対応しているのですか。

○海のふるさと村担当 食事につきましては、今、皆様、自炊での対応という形をお願いしているところでございます。ただ、島で移動する手段としてレンタカーをお借りになるお客様が多いので、施設外の飲食店等で取られる方も多くなってきております。

○下村委員長 よろしいですか。

ほかに何かございますでしょうか。いかがですか。

先ほどのキャンプグッズなども大分そろえておられるようなのですけれども、ああいうものの貸出率というか、手ぶらで来られる方はもちろんお借りになられるのでしょうか、それ以外の方でも結構お借りになられるのですか。

○海のふるさと村担当 こちらの貸出し備品の稼働率でございますが、全体の7割強でございます。セントラルロッジにお泊まりのお客様も今は自炊ということでお借りになっておりますので、その辺の使用率は高めなのかなというところでございます。

○下村委員長 ありがとうございます。

ほかに何かございますか。いかがでしょうか。

どうぞ。

○近藤委員 先ほど、釣りのお客さんもいらっしゃるということなのですが、海が近いということは、逆に海の危険もあるということなのですが、特に台風などが来たときはどんなふうにお客さんに対応していらっしゃるのでしょうか。

○海のふるさと村担当 まず、台風が近づいてきた場合なのですが、交通機関の欠航が予想されますので、お泊まりのお客様につきましては、事前に注意喚起をしております。また、防災面のほうでも急傾斜地をしょっている場所がございますので、大雨注意報、大雨警報、大島町が判断する土砂災害警戒の仕組みの中で、極力孤立しないように、事前事前にお客様への注意喚起というものをしております。

ただ、これの判断がなかなか難しいところがございますが、実際にはそこまで対策しなくてもよかったのではないかと思われる方もいるのですが、なるべくお客様の安全を最優先事項と考えまして、早め早めでお声がけはさせていただいております。

○下村委員長 どうぞ。

○今村委員 自然体験のイベントを幾つか増やしたというお話で、初日の出とか宝さがし大会、浮き玉編み体験は島民の人の参加がほとんどなのですか。それとも、宿泊者なのですか。

○海のふるさと村担当 初日の出につきましては、島外のお客様が6名でした。残りのお客様が島内の方です。宝さがし大会については、島内、島外というよりは、帰省されてお孫さんを連れてくる島内の方。ですので、連れてこられたほうは島外になるのですが、その区分けができなかったもので御紹介はしていない状態です。

また、2月の浮き玉編み体験につきましては、島内の方が全てでございました。ちょうど新型コロナにだんだん皆さん警戒をしてくる時期で、開催としてもぎりぎりの段階だったのかなというところで、島外からのお客様は今回はいらっしゃいませんでした。

○今村委員 分かりました。

昨年、仕込み中だとおっしゃっていた塩作りとか椿油を作るということにもチャレンジしたいとおっしゃっていましたよね。

○海のふるさと村担当 実は、椿油の体験については、10月に企画をしたのですが、募集をかけても応募がなかったということで、流れてしまいました。

○今村委員 そうなのですね。ちょっと残念ですね。

○海のふるさと村担当 塩作りについては、ちょうど2月に予定していたのですが、新型コロナの影響が出始めてきていたので、なかなか難しいということで、浮き玉編み体験を地元

の漁師のOBの方を呼んでやらせていただいたという次第です。

○今村委員 分かりました。

やはり大島といえば樁のイメージが強いので、これに懲りず、なぜ集客できなかったかを分析して、これも島外の人を何らか呼べるようなツールにはなるのではないかと思うので、ここの検証をしてまたチャレンジしていただきたいと思います。

もう一個だけ、去年、お風呂とか壁の剥がれとかの老朽化が結構厳しいとかとおっしゃっていたと思うのですが、その辺りはまだそのままですか。ある程度の予算が必要になってしまうと思うので。

○海のふるさと村担当 抜本的な大改修になってしまうので、本当に壁を解体してという形になるので、かなり大がかりになると。ただ、脱衣所の棚の剥離部分、結晶板が結露等で剥離しているのですが、そちらは海のふるさと村の中できれいな景色を写真に撮りまして、それをA3版に引き伸ばし、ラミネート加工をして、目隠しではないのですが、損して得取れという形で、海のふるさと村キャンプ場の中のPRをそこですするという形でごまかしております。

○今村委員 涙ぐましい努力をされているんですね。

分かりました。ありがとうございました。

○下村委員長 どうぞ。

○橋本委員 2点お願いします。

まず、アンケートが大分減って、報告書の中では天候の要因ということをお指摘されていますけれども、それだけと理解してよろしいですか。3分の1ぐらいになっている感じですね。

○海のふるさと村担当 そうですね。あと、リピーターのお客様が再度アンケートを書くということがなかなか難しいのかなというところで、こちらのほうでもお声がけはしているのですが、結果として数字に出なかったというところがございます。

あと、団体のお客様が夏シーズンは多いので、そうなるとアンケートをお願いはするのですが、団体のスケジュールの中でなかなか御協力いただけないというところも正直ございます。

○橋本委員 その辺りの工夫が少し必要かなという気がしました。

もう一点は、地元の学校との連携の中で毎年行っておられる小中学校の企画のキャンプ体験とか校外学習に全面的に協力されているということですが、具体的にどういうこと

をやっておられるのかということと、それに参加した生徒さんたちの反応などを少し聞かせていただければと思います。

○海のふるさと村担当 まず、島内の小中学校の校外学習ということで海のふるさと村の御利用がございました。先生方との協議の中で、例えば送迎が必要だとかということがあった場合には、学校まで29名乗りのバスを乗りつけまして、それで送迎をさせていただくということもございます。

また、学校さんによっては時間帯で、こちらのほうも御協力しなければいけない時間帯の御利用がございましたので、そういうところも臨機応変に対応していたという次第でございます。

○橋本委員 実際にどういう体験をしたいかというのは、学校のほうの要望を聞いて、それに応じて対応しているわけですか。

○海のふるさと村担当 さようでございます。

○橋本委員 あと、生徒さんたちの声などは把握しておられますか。

○海のふるさと村担当 学校さんによっては、よく感謝の作文みたいなものを書いてくださるところもあるのですが、たまたま昨年度はそういうものを頂けることはなかったので、次につなげるために、今後、学校の先生を窓口にして、実際に御利用いただいてどうでしたかという、アンケートではないのですが、聞き取り調査というものは実施したいと思います。

○橋本委員 ぜひそういうような形で、せっかく使っていただいて連携を深めるいいチャンスになりますので、より満足していただけるようにという感じでできるとよろしいかなと思います。

○海のふるさと村担当 ありがとうございます。

○塚本委員 1点だけなのですが、テントもお貸しになって、キャンプの道具も貸出ししているのですが、食材や何かというのを売店で売るとかという工夫はしているのですか。

○海のふるさと村担当 売店での販売というのが、販売ができる什器等の整備もございまして、今のところはできていない状態でございます。また、お客様がお買い求めになりたいものをある程度のストックはできるとは思うのですが、なかなかニーズに応えるのは難しいかなというところがございます。

ですので、御予約を頂いた際、お客様にはスーパーまでの距離が車で片道40分ほどかかりますということを事前にお伝えしている中で、多分お客様ごとにニーズが違うので、島内の

スーパーが道すがらございますので、そちらのほうでお買い求めいただいたほうがよろしいかと思っておりますという御案内をさせていただいております。

○塚本委員 ありがとうございます。

参考までなのですが、私のところの休暇村で「手ぶらでキャンプ」という事業をやっています。テントも道具も貸して、食材も予約で売ります。地元から仕入れた食材に経費を上乗せすると地元も自分もいいのではないのですか。何も持たずに来てキャンプできますという、島に来る人たちも1泊ぐらいキャンプしてもいいかなと思うのではないのでしょうか。休暇村の「手ぶらでキャンプ」はヒット商品です。

○海のふるさと村担当 ありがとうございます。参考にさせていただきます。

○下村委員長 パンフレットを更新されたということだったので、電子媒体のほうは今で十分ですか。村のホームページからアクセスができたりとか、今、東海汽船も出しているのですかね。要因としては、今や電子系のもののほうが有効のように思うのですが、それに関してはどんなふうにおられますか。今で十分ですか。

○海のふるさと村担当 まず、電子媒体につきましては、例えばパンフレット等のデータをつくった際に、リアルタイムにお客様への発信ができるということで、現在検討しているところでございます。また、直近の海のふるさと村の情報につきましては、公式ホームページ以外にFacebookを活用させていただいております、例えば一回やってみたのが、定点観測ではないのですが、同じ位置から毎日写真を撮るということで、晴れの日もあれば曇りの日もあるということをやったこともございます。

また、これは今年度なのですが、大雨が降った際に、オフシーズンで雨が降るとキャンプ場としての魅力はなかなかないのですが、花を愛でるとか自然を愛でる中でちょっと変わったものがあるよと。そういうものを、静止画もそうですが、動画も撮りまして、そちらのほうにアップしております。実際にFacebookのほうで投稿した際、そちらの閲覧数が格段に伸びているので、やはりアイキャッチを含めた絵というのですか、そういうものを発信する。そこでキャプションないし説明をつけるということは非常に有効なのかなとは考えております。

○下村委員長 先ほどの椿油作りの反応がどうも悪かったということで、そういった自然教室の情報ももちろん、そういうところに掲載はされているのですね。

○海のふるさと村担当 はい。

○下村委員長 そこからある程度申込みがあったりする仕組みにはなっていない。一応、ま

だ案内するという。

○海のふるさと村担当 そうですね。そこまでですね。

○下村委員長 ほかに何かございますか。

あと、先ほど災害時の話がありましたけれども、ガイドラインなどは町がつくっておられるものに準拠するという形ですか。

○海のふるさと村担当 そのとおりです。

○下村委員長 かなり十分なものと御判断していると。

町のガイドラインは見せていただいているのですが、町民向けの話と来訪者向けの話がありますよね。そちらのほうも町のほうのガイドラインで大丈夫ですか。

○海のふるさと村担当 ベースは町のガイドラインなのですが、それより正直レベルは高めにして運用している形を取っています。

そちらなのですけれども、災害もそうなのですが、かなりフットワークを求められる即決判断というものもやはりございますので、実際に担当の課長と災害が見えてきた段階で相談しまして、こうしようというふうに判断して対応しているのですが、実際には大島町のガイドラインよりはかなり厳しいレベルで既に判断しているという形を取っています。

○下村委員長 それは何か内規のような形で、ふるさと村のほうで用意されているのですか。

○海のふるさと村担当 これは文書というよりは今まで伝承してきたものという形になっています。もちろん、今後につきましてはマニュアル化したほうがいいのかと思うのですが。

○下村委員長 そうですね。お帰りになられたときに継承できるほうがよろしいかと。

やはり客向けのガイドラインはちょっと形質が違いますので、そこも御配慮いただければと思います。

○海のふるさと村担当 かしこまりました。

○下村委員長 ほかに何か委員の先生方からございますか。特によろしいですか。

それでは、これで終了させていただきたいと思います。お疲れさまでした。ありがとうございました。

(指定管理者退室)

○下村委員長 それでは、評価をお願いします。

(各委員シート記入)

○下村委員長 そろそろ評価はよろしいですか。

評価が終わられたようでしたら、続けましょうか。

次は、多幸湾公園で、指定管理者は神津島村です。

(指定管理者入室)

○下村委員長 それでは、プレゼンテーションは15分でお願いします。10分と14分経過しましたらお知らせいたしますので、参考にしてください。よろしくお願いいたします。

○多幸湾キャンプ場担当 それでは、東京都立多幸湾公園ファミリーキャンプ場における平成31年度の管理状況について御説明いたします。

○○よろしくお願いいたします。

初めに、平成31年度の評価結果、評価内容に対する取組について御説明いたします。

まず、管理状況ですが、安全確保を優先し、快適な環境を確保するための備品・衛生管理を実施しています。島の環境をよく知らないお客様は天気予報などを確認していない方がほとんどです。そのため、特に台風接近の際には、利用者に事前に情報をお伝えし、来島の検討や既に来島されている方には早めの離島を促しています。さらに、東海汽船に協力いただき、竹芝ターミナル、同社ホームページでの注意喚起も行っております。また、フリーWi-Fiの継続、トイレの除菌シート設置や食器類の洗浄、除菌の徹底等、快適に過ごしていただく環境づくりをしております。

次に、事業効果ですが、企業とのコラボツアーということで、今年度も島の主要交通機関である東海汽船とのコラボにより、低価格でコストパフォーマンスの高いツアーを実施することができました。東海汽船が販売することで、ネームバリュー、注目度も違いますし、広告にもなります。また、一番費用のかかる船賃を大幅に割引することもできました。今後も内容を精査しつつ、ツアーを継続的に企画・販売する予定でおります。なお、昨年度のツアーは東海汽船「島さんぽ」というツアーの中に組み込まれており、チラシ1万5000部が全国に配布されております。

次に、施設の規模に応じた安全と満足度を優先した受入れということで、現在、多幸湾公園ファミリーキャンプ場では1日の利用人数を制限しております。平成29年度は総利用客数が5,000人を超えておりますが、当時のアンケート内容、当時の利用者や職員等からの情報によると、ピーク時は1日に300人ほどの利用者があり、トイレ、シャワー、お風呂、火床、炊事場、冷蔵庫、洗濯機等の共用スペースが全然空かない。また、大雨時の避難場所がない、施設のキャパシティを超えた受入れだったため、快適に過ごせないとの声が多くありました。

そのため、より安心して快適に過ごしていただくため、施設の設備内容、災害時の危険性を

鑑み、1日最大120名を定数としております。このことにより、利用者からは以前より大変快適に過ごせるようになったとの声を頂いております。

その他ですが、島の伝統、文化、方言に関する体験プログラムということで、多幸湾キャンプ場では、自然教室の開催時には必ず島の伝統や文化などを組み込んでおります。ガイドや講師のお年寄りから学び知ることにより、後世へ引き継いでいきたいと考えております。

次に、団体利用についてですが、今年度も8月1日から18日の期間、団体の利用者を制限させていただきました。18日以降に団体を誘導し、ツアーは閑散期に設定いたしました。これにより、個人利用者と団体利用者間のトラブルを解消できたと考えております。また、利用者の少なくなる時期に設定することにより、少年スポーツチームの団体利用者と島のスポーツチームの交流会等を実施しております。

次に、自然教室の実施状況を説明させていただきます。

島外自然教室は、計画では6回企画しておりましたが、悪天候やコロナウイルス感染症の影響等により、3コースの実施となってしまいました。実施した教室はいずれも大変満足いただいております、全て観光協会、神津島村、地元業者各団体と連携して行っております。

いずれも基本的には登山、温泉、島のグルメを堪能するツアーですが、その中には島の自然に触れることはもとより、各スポットでの島の文化や成り立ちを説明するなど、単に観光ツアーにならないよう、工夫しております。また、雨天時には途中で内容を変えまして、郷土資料館で島の歴史を知り、映画「天気の子」の舞台となったスポット巡りや、お帰りの際には島ならではの紙テープでの見送りが大変好評となっております。

次に、島内の自然教室につきましては、6回企画しておりましたが、悪天候のため5回の実施となりました。いずれも小学生を対象とし、昔の島の食文化、方言などをお年寄りから学んでおります。

続いて、前年度より工夫した点ですが、今年度は夏季シーズンに各海水浴場の遊泳状況を利用者に掲示いたしました。神津島には海水浴場が5か所ありますが、当日の風向きや波の状況により遊泳状況が大きく変わります。また、各海水浴場がそれぞれ離れているため、サービスセンター内のテレビにて港湾カメラの映像を映し、ライフセーバーと連携して状況をキャンプ場出発前に確認できるようにしました。これにより、当日の行程を計画しやすく、また、利用者の安全管理にもつながったと感じております。

映像にない海水浴場は、施設の職員が天候とその他の海岸映像から判断し、利用者の希望に合った場所をお勧めしております。

次に、ネット予約のリニューアルを行いました。アンケート結果から、以前のネット予約は使いにくく不便との声が多かったため、日本最大級のキャンプ場検索予約サイトのなっぷと提携し、リニューアルをしました。これにより、各テントサイト別のプラン表示や在庫管理、顧客管理もできるようになり、宣伝効果にもつながりました。しかし、繁忙期には電話予約とのダブルブッキングを避けるため、オンシーズンは中止としております。今後、販売数の割当てと併用を模索することが課題と考えております。

次に、電気ポットの増台、傘の無料貸出しを行いました。傘については、お泊まりになった利用者さんが大体ビニール傘を買って持ってくるのですが、チェックアウトの際、不要なので捨てておいてくださいと置いていったものを再利用しております。

次に、今年度は施設の修繕を重点的に行いました。多幸湾キャンプ場は台風による直接的な大きな被害はございませんでしたが、老朽化も激しくなってきました。軽微な破損が多かったため、例年より力を入れ、より細かな修繕を行いました。デッキテントの腐食が激しいため、それぞれ職員が自前で全て行っております。また、休憩舎も全て防腐剤を塗り直し、炊事舎の火床も割れがひどかったところは全て耐火レンガで補修を行っております。

次に、特に力を入れた、成果を上げた内容についてですが、適切な受入人数ということで、先ほども申し上げましたが、施設のキャパシティーに応じた受入人数に制限することにより、トイレに並ぶ、冷蔵庫がいっぱいで入らない、火床が埋まって使用できない等の問題解消とともに、利用者快適性が大幅にアップしました。また、利用者に対してきめ細やかな対応が可能になったことで、アンケートに職員への直接の感謝の言葉を記入していただくことが多くなりました。さらに、大雨や災害時の避難誘導等、防災面についても以前より安全性を確保できたと考えております。

また、神津島の伝統、文化を継承ということで、神津島にはIターンを含め、島出身でない方が多くおります。そのため、現在子供たちも親が方言を話さないため、方言がほとんど話されることがなくなっております。そのため、できるだけ自然教室の際はわざと島の方言を使って話すようにしたりなど、お年寄りしか使わないような難しい方言をわざと使って、今後も廃れゆく神津島の大切な伝統、文化に触れることで後世に継承していきたいと考えております。

ちょっとこちらでつくった資料とパワーポイントがかなりずれてしまって申し訳ないのですが、利用者に好評だったサービスなのですが、これは神津島村との連携事業として継続的に行っている臨時バスの運行です。島の交通事情、タクシーの夜間営業なし、レンタ

カーは即満車という事情により、お客様が移動手段に困惑しております。臨時といっても、毎日定時に運行することで、その時刻によりお客様の移動計画が立てられるというメリットから好評を頂いております。夏の繁忙期には夜間の温泉バスの運行、花火大会のときにはキャンプ場から会場までの無料送迎バスを運行しております。

なお、今年度になりますが、今、村営バスの停留所がキャンプ場入り口となっております、下車から4分ほど歩いてかかるのですが、神津島村と協議の上で、キャンプ場のサービスセンターの目の前までバスを止められるよう、コースを変える方向で考えております。

最後になりますが、多幸湾キャンプ場はどなたがお泊まりになってもふるさとに帰ってきた、自然のままの環境を生かした、癒やしや楽しさを提供できる施設として、島の文化、自然を存分に堪能してもらうためにも、快適に過ごしていただくための雰囲気づくり、心からの接客をモットーに運営しております。

近年のキャンプブームにより、一部の利用者の非常識な行動から野営場が閉鎖となり、多幸湾に流れてくることが予想されます。利用者が増えるのは喜ばしいことですが、全ての利用者が満足して過ごせるよう、さらなる対策も必要かと考えております。現状にとどまらず、これまでに増したサービス、利用者目線の改善を心がけ、多幸湾公園ファミリーキャンプ場の魅力を発信してまいります。

以上となります。御清聴いただきましてありがとうございました。

○下村委員長 御説明ありがとうございました。

それでは、委員の皆様から御質問、御意見をお願いいたします。いかがですか。

近藤委員。

○近藤委員 まず、最大利用者数を1日120人に制限してサービス向上を図ったということなのですが、ということは、事前に予約を取っているということなのですか。

○多幸湾キャンプ場担当 はい。基本的に要予約とPRしておりまして、ただ、やはり確認せずに飛び込みで来る方もいますので、予約時では100人を上限にして、一応飛び込みで来ても対応できるように20名の余裕を取っております。

○近藤委員 それから、神津島ですと利用者が伊豆半島からもアクセスができるのですが、どうしても、どういうところから来ているということは調べてありますか。

○多幸湾キャンプ場担当 関東圏がほとんどなのですが、夏の時期になりますと、熱海からジェットfoilが神津島に来ます。また、ここ数年で下田からのフェリーがカーフェリーになったことから静岡県、愛知県、関西のほうからも、昨年だけで全体の1割ぐらいは関西

圏の方がおります。あとは、ほとんどが関東圏になるのですけれども、甲信越、東北の方が本当にたまにという形です。

○近藤委員 あと、外国人の利用はどうですか。

○多幸湾キャンプ場担当 外国人の方も増えてはいるのですが、やはりまだそこまでという形で、全体の1割も満たないという感じです。ただ、昨年も団体での利用が多くて、一般の企業が外国人のツアーを企画してお客さんを予約して送ってくるというケースがあったのですけれども、やはりちゃんとしたツアーコンダクターがついていないため、また、英語表記をほとんどしているのですけれども、ちょっと好き勝手にやってしまうところがありました。

一応、こちらとしても説明はするのですけれども、英会話を100%できる人間がいないので、昨年度から自動翻訳機を購入して使っております。

○近藤委員 あと、以前は民宿とコラボして、1泊民宿に泊まって1泊はこちらに泊まるようなこともやられていたのですけれども、今はその取組はされているのでしょうか。

○多幸湾キャンプ場担当 現在は、オンシーズンはそういうことは、民宿も減っております、オフシーズンに一応考えたことはあるのですけれども、やはり最近の民宿はオフシーズンになると閉めてしまうので、中途半端な時期にお客様を、特に団体は受けたくないという、それで今はやっておりません。

○近藤委員 最後に、東京の奥多摩町と友好都市だと思えるのですけれども、そちらと何か連携しての取組とかはあるのですか。

○多幸湾キャンプ場担当 はい。30年度には奥多摩町とコラボツアーということで、奥多摩からツアーを1回、キャンプ場に宿泊のツアーをやらせていただきました。31年度もこちらとしては計画していたのですけれども、担当者が替わられたら話がなくなってしまって、それでできませんでした。

○近藤委員 ありがとうございます。

○下村委員長 ほかに何か。

どうぞ。

○橋本委員 今の中に出てきた質問の続きという感じになるのですが、120名に設定されたことで満足度が非常に上がったということですが、120名が適正と判断された理由は何かございますか。

○多幸湾キャンプ場担当 一番は水回りなのではございますけれども、やはりトイレがサービスセンター内に1か所と外のトイレが1個あります。サービスセンター内のトイレが、男性のほうは

小便器が2つ、大便器が1つだけなのです。外のトイレは、屋外なので扉がついていないことから虫が入ってしまって、そちらを使うのを嫌うお客様が多くて、サービスセンター内のほうが朝は行列になるという形です。このピークに300人入れていたときには、お風呂の時間を延長したのですけれども、入り切れないだとか、夜御飯を作るときに火床を使う時間帯は大体かぶりますので、当時のアンケート結果を見たのですけれども、ちょっと心苦しい意見が多かったのです。

また、大雨の際に、特にフリーテントのところは池のような状態になってしまいます。サービスセンター内に入れたとしても、どう見ても最大80人が限度です。デッキテントのほうはウッドデッキの上にありますので、そこはサービスセンター内に入らなくも問題ないという事で、防災上の理由から120という設定にしております。

○橋本委員 分かりました。

そうすると、120で設定したことは適正と。

○多幸湾キャンプ場担当 はい。適正だと考えております。

○橋本委員 ありがとうございます。

それは、制限をかけたのは何日間になりますか。トップシーズンの間ずっとということになるのですね。

○多幸湾キャンプ場担当 はい。ずっとです。

○橋本委員 分かりました。

すみません。もう一点お願いします。島の子供たち向けに自然教室をやっておられるということで、これは非常にいいことだと思いますけれども、それに参加したお子さんたちの声と、高齢者の方々にそのときに関わっていただいているということで、その高齢者の方々、お年寄りの方々に指導していただいている、その方々の声というのは把握していらっしゃいますでしょうか。

○多幸湾キャンプ場担当 子供たちに毎回アンケートを終了時に書いていただいて、やはり子供なので楽しかったという声がほとんどなのですけれども、次、ほかに何かやってみたいことはという欄もありまして、その中でこういうものを作ってみたいとか、今年は明日葉汁という汁物だったので、中には今度はあぶらきをやりたいとか、ごま和えを作ってみたいとかで、教える方もお年寄りで大体何でも作れますので、お年寄りのほうからも今度はこういうものはどうという提案も頂いています。

○橋本委員 それはすごくいいことで、特に関わっていただいているお年寄りの方々のやり

がいにつながっていくことが非常に重要だと思いますので、これからも続けていただければと思います。ありがとうございました。

○下村委員長 ほかはいかがですか。

今のことにに関してなのですけれども、島内の子供さんに関しては、宿泊はどうされているのですか。自然教室で半日とか、それだけですか。泊まりも含めて。

○多幸湾キャンプ場担当 キャンプの泊まりは行っていません。ただ、小学校6年生は毎年、宿泊を兼ねて行っております。

○下村委員長 中の需要というか、高学年ぐらいにならないとキャンプという話にはならない。

○多幸湾キャンプ場担当 やはり保護者も心配というところもありますし、6年生になると慣れてはきているのですけれども、やはり低学年となると、また、どうしても土日休日にしか宿泊ができないので、そうすると島の子供たちのほとんどが習い事をしていまして、土曜日の夜になるとサッカー、バレー、柔道、剣道と習い事が全て土日に集中していますので、宿泊は難しいという形になります。

○下村委員長 分かりました。

御質問はいかがですか。

今村委員、どうぞ。

○今村委員 以前はアンケートの満足度が低かったというお話がありましたけれども、過去、そんなに満足度が低い印象がなかったのですが、夏の混雑時のときにはそういうクレームがあったという話は聞いていましたけれども、さっきおっしゃっていた満足度が以前は低かったというのは通年を通してなのですか。

○多幸湾キャンプ場担当 いえ、夏です。

一応、アンケート表の中の段階で満足度は、それぞれ満足というふうに丸はしてくれてあるのですけれども、自由表記のところ、お風呂が使いなかつたとか団体が占領しているとか、朝、トイレに入れないという声がびっしり書いてあったのです。

○今村委員 では、総合点的にすごく下がっているわけではなかったのだけれども、コメントが、これはちょっと申し訳ないよなという感じだったということですね。

○多幸湾キャンプ場担当 はい。

○今村委員 分かりました。

あと、全体としては、集客数はどんどん減ってしまっているという感じが印象としてある

のですけれども、それはいろいろと制限をかけていらっしゃるからなのかなとも思ったのですけれども、そうでもないのですか。

○多幸湾キャンプ場担当 制限もありますが、31年度に関しては、やはり台風が大きく影響してしまっていて、ピーク時に300入れていた平成29年度には5,287名で、30年度が3,561名で、31年度に関しては2,862名とかなり大幅に減っています。30年度も台風が多かったのですが、31年度に関しては7月の後半に台風の影響が出て、8月6日から9日、8月10日から16日、17日、18日、9月7日から12日、10月10日から13日という形で台風の影響が出てしまっていて、それぞれ台風の前に予約いただいていた人数だけで953名がキャンセルになっています。

また、3月にコロナの関係で休園したことから、そのとき既に3月の予約を頂いていた方が330名、合計で1,283名おりますので、それをもし来ていただいていたとすると4,000人強となりますので、利用者としてはもし何もなければ増えていたと思います。

利用客の人数ではなくて予約いただいたグループ数ですと、昨年ピーク時が713組、30年度が497組だったのですけれども、今年お泊まりいただいた組数が470組だったので、組数としても何もなければかなり大幅に上がっていたと思います。

○今村委員 分かりました。

そうはいつでも、神津島全体は101%の集客ができているという数字が出ているので、確かに台風の影響が近年は大きいかと思うのですけれども、台風以外に何かあるのかという辺りも本当は考察していただけるといいなと思います。

ちなみに、計算が間違っていなければあれなのですけれども、今、3,039人ということで、これは月で単純に割ると253人。旅行はオンオフがあるので単純に12か月で割っていいものではないのですけれども、月に253名を360日で割ると1日8名ぐらい。でも、平日はきっと人が来ないので、週末だけで考えると1日の来訪が30人ぐらいと考えると、スタッフの数やトイレの数には、もう少しキャパが多少あるのではないかと思います。

なので、これからどんどん台風が増えていく中で先細りしてしまいますという結論ではなく、何か新しい策も考えていってほしいと思います。取組の中では割と地域の人とともに地域資源を発掘しながらいろいろなプログラムをつくって地道な努力をしているのがすばらしいなと思っていたので、そういう新しい取組とかを期待したいなと思うのですが、いかがでしょうか。

○多幸湾キャンプ場担当 一応、キャパに関しては、やはりどうしても週末といっても島なので、冬はほとんど来られないというところもありますし、一応、人数のキャパとしては限

界かなというのが正直なところですが。ただ、やはり自然と海しかないところなのですけれども、別の目的というか、どういった客層を引っ張ってこられるかというのはこのところの検討課題だと感じています。

○今村委員 分かりました。

○下村委員長 ほかに何か。

どうぞ。

○塚本委員 収容力を減らしたことによって断ったお客様の数は把握されているのですか。

○多幸湾キャンプ場担当 そのカウントはしていません。ただ、オンシーズンはかなりお断りしております。

○塚本委員 ピークがあるということですね。

○多幸湾キャンプ場担当 はい。ゴールデンウィークとお盆、あと、8月頭の夏祭りのところは予約開始と同時に全て埋まるという形になります。

○塚本委員 解決の仕方として、ピーク時に合わせて施設を大きく造るというやり方と、収容力のほうから考えれば、これが適切なのでピークをカットしてお客さんを受け入れないという今のやり方の2つの解決の仕方があるのですけれども、利用客を増やそうと思ったらピーク時に合わせて施設を造ればいいわけです。都庁に頼んで、こんなに来るのだからもっと造ってくださいという発想はないのですか。

○多幸湾キャンプ場担当 来年度から改修が始まりまして、2か年で行うのですけれども、今、キャンプ場の目の前にある広場があるのですが、そちらはキャンプ場の施設ではなくて村の運動施設なのですけれども、近年使われていないので、そこをフリーサイトに整備し直すのと、サービスセンター、炊事舎、デッキテントの増設というふうに計画しております。その際に、最大収容人数としては現在200名強を予定しております。

○塚本委員 当然、トイレも整備しなくてはいけないし、水道も火床も増やす工夫をしないと満足度は得られないということでしょうね。

○下村委員長 それでは、時間ですので、終了したいと思います。お疲れさまでした。

(指定管理者退室)

○下村委員長 それでは、評価をお願いします。

(各委員シート記入)

○下村委員長 それでは、最後ですね。御岳インフォメーションセンターということで、指定管理は一般社団法人青梅市観光協会ですね。入室を促してください。

(指定管理者入室)

○下村委員長 よろしいですか。

それでは、プレゼンテーションは15分でお願いします。10分と14分でお知らせをしますので、参考にしてください。よろしくをお願いします。

○御岳IC担当 それでは、2019年度御岳インフォメーションセンターの管理運営における事業報告をさせていただきます。

まず、最初に過去3年間の月ごとの利用者数をこちらのグラフで示しております。2018年度から当協会のほうで受けてきて、史上最高の年間利用者数を一昨年は達成したのですが、昨年度は残念ながら3万719人ということで、過去3年間の中では一番利用者数が少ない状況になっておりました。

その原因なのですけれども、まず、6月、7月がすごく少なくて、去年は梅雨が長かったのです。今年もそうなのですけれども、梅雨の影響をかなり受けておまして、特に土日の天候が悪かったことからぐっと人数が下がっております。

さらに、後ほど写真をお見せしますが、台風19号が10月12日に来襲いたしまして、遊歩道全般がかなり通行止めになってしまったというところは大きく影響してございます。それが当然、11月も引っ張る形になっております。12月以降は比較的暖冬だったので、12月、1月、2月は3年間の中で一番多くて、特に登山客などが多かったのですけれども、いいなと思っていたら3月に残念ながらコロナの関係で、3月1日で閉めるという形になって、こういう状況になったと分析しております。

先ほど申しました台風19号なのですけれども、左側の写真が無事だった頃の御岳小橋でありまして、それが大きく流されてしまったということがございます。

次に利用者ニーズの把握と主な取組なのですけれども、昨年、アンケートが少な過ぎるということを言われました。確かに6件だったのでそうだったのですけれども、今年は67件に増えました。こちらなのですけれども、今まで花火大会でタブレットが余っていたものを登山者にサービスとしてかごに入れておいたのですけれども、それをアンケート用紙につけることによりまして、アンケートを書いたらもらえるという形にしまして、それで皆さんいろいろ書いてくださるようになりました。内容につきましては、以下にあるのですけれども、駅のトイレが汚いというのは市の管理ですので、市のほうにはこちらから報告はしてございます。

あと、御岳溪谷の遊歩道のうち、軍畑から沢井の間はまだ橋が崩れた状況で通行止めなの

で、こちらの案内等々をしてございます。

こちらの写真は御岳小橋で、先ほどの御岳小橋の中央から撮ったものなのですが、残念ながら今はこの景色は見られないのですけれども、こういった形でライトアップ等々を行い、集客に努めてございます。

休館日の変更につきましては、去年もやったのですが、月曜日のほうは青梅市御岳交流センターというところが近くにありますので、そこをバッチェングしないように曜日を変更してございます。時間の延長なのですけれども、去年は30分というふうにやったのですが、今年はJRのダイヤの改正がございまして、20分の延長にとどめる形に変更させていただきました。

こちらは普通にやっていることでございます。

去年、御指摘を頂いたのですけれども、地元のもの、特にチーズとかを売ったらどうだという御意見を頂きました。それで、今年のも物販なのですけれども、去年に比べまして約5.3倍伸びました。一番伸びているのが酒類なのですけれども、こちらはビール等々の販売を加えたことによりましてかなり大幅に伸びました。ビール等々は地ビールではないのですけれども、地元の業者から仕入れておりまして、地元のほうに利益は還元していると思います。

次に、昨年度の売上げの内訳なのですけれども、酒類が約55%という形で、ビールが断トツで多いのですけれども、そういった形で示されます。昨年、地元のものを買ってください、チーズなどはどうですかという御指摘に対してましては、左下に写真で示しておりますが、地元産おつまみ、燻製チーズと燻製卵を販売してございます。こちらは好評でして、上側の一般的なおつまみは150円で、下のほうは250円から360円ぐらいするのですが、下のほうが売上げが多い、倍以上という形になってございます。本当にありがとうございました。

さらに、ビールは飲めない、お酒もという方で結構、最近はチューハイとかハイボールのほうに人気がございます、早速ですが、今年の7月から導入いたしました。そうしたら、まだ7月も天気が悪くて入り込みが少ないのですけれども、それでもぽつぽつと売れる形になっております。こういった点で改善を示してございます。

次に、広報に対する取組なのですけれども、インターネットの観光協会のホームページで紹介してございます。

さらに、地域の連携等々なのですが、ゆずの加工品や地酒の販売等々を行っている。先ほど申し上げたとおりです。あと、地元の行事と連携して行っていたりとか、こちらは去年もやったのですが、経費の削減ということで、いろいろと工夫はいたしてございます。

次に、適切な管理を行うための主な取組なのですが、こちらのほうも日常的なことで、昨年と同等のことを行ってございます。

昨年、雨どいのほうの清掃を実施いたしました。今年度も実施する予定でございます。

人員配置なのですが、こちらも特に去年と変更はございません。よく頑張っている2人にやっていただいております。

次に、事故を未然に防ぐための安全対策なのですが、昨年度は2月21日に近くの地元の日向和田消防署の職員の方に来ていただきまして、いろいろと講習を受けました。そういった形で安全対策に取り組んでございます。

自主事業に関しましては、昨年度は、昨年10月の台風19号によって大きな被害を受けたために自然観察会ができなかったりとか、3月の野鳥観察会が新型コロナウイルス対応のために延期になったり等々でちょっと残念だったのですが、いろいろ企画して取り組んでおります。今年度も行う予定であります。

ただ、残念ながら今年の台風19号によって、結構、御岳溪谷の植生が変わってしまいました。自然観察会は今まで春の花を見ていたのですが、そういったものは今年にはできないかなと思っております。代わりに美術館巡り等々、新たなことを取組で増やしていきたいと思っております。

コインロッカーも行っておりまして、コインロッカーに入らない大きな荷物は、特に外国人に多いのですが、そういったものを時間制限がありますよということで預かっております。ただ、今年はこの状況ですので、特にないのかなという感じもするのですが、こういったことを行っております。

早口になってしまいましたが、以上で終わらせていただきます。ありがとうございました。

○下村委員長 それでは、委員から御質問を受けたいと思います。何かございますでしょうか。

どうぞ。

○近藤委員 まず、御岳小橋が流されてしまって対岸に渡れないというのが、今、美術館巡りなどというお話もされていたのですが、その場合はどういうルートで回るような感じなのですか。

○御岳IC担当 すぐ近くに御岳橋という歩道もしっかりついている橋がありますので、そちらのほうで歩く形になります。

○近藤委員 それから、隣接する駅がもう無人化になってしまっているのですよね。

○御岳IC担当 はい。そうです。

○近藤委員 その駅員さんがなくなったことでの影響というのはあるのでしょうか。

○御岳IC担当 ○○たまに両替をしてくれという方がいらっしゃいます。JRさんは千円札しか使えないのです。そういう方がたまにいますので、個人的に両替を持っておりまして、それで優しく替えてあげております。

それぐらいですかね。あとは特に、時刻表とかも載っていますので、両替ぐらいだと思います。

○近藤委員 あと、外国人のお客さんなどはどうなのでしょう。よく利用はされているのでしょうか。

○御岳IC担当 ずっとデータは取っているのですがけれども、大体1割です。コロナが始まる前まではどこの国からいらっしゃったのですかと聞いて、そのデータも取ってございましたけれども、コロナが始まってから当然、海外からは来られないし、逆に聞くと何か疑われているのかなと思われてはいけないので、今年度はもう聞いていません。ただ、外国人は分かります。

昨年はやはり欧米の方、アメリカが圧倒的に多い。あと、フランス、イギリスとかです。アジアでは中国です。韓国はたまたまかもしれませんが、いろいろなことがあって本当に少ないです。大体1割です。去年は3万ほど来ていますから、3,000人ほど。もちろん、日本に住んでいる方もいらっしゃいますけれども、明らかに海外から来ている方も間違いなくいました。

○近藤委員 外国人の方が来られて、その後はどこに行かれる方が多いのですか。やはり御岳山ですか。

○御岳IC担当 外国人の方は圧倒的に御岳山ですね。御岳溪谷もたまに家族連れ、子供が小さい方で来るときはいらっしゃいますけれども、ほとんどマウント御岳です。間違いありません。

○下村委員長 ほかに何か御質問はございますか。

どうぞ。

○橋本委員 アンケートの実数は少ないですがけれども、以前に比べると増えて、塩タブレットのアイデアなどもすごくいいかと思っておりますので、引き続き、ぜひお続けいただければと思います。

物販に関しても5.3倍ということで、それは利用者の方々のニーズということもありますけ

れども、地元への貢献という面でも非常によろしいかと思いますが、ちょっと考えると売れ筋は、時間帯によって午前中に必要なものと帰りがけに必要なものがありそうで、いわゆるエッセンシャルグッズといいますか、報告書の中にあります雨がっぱであったり、熊よけ鈴であったり、おにぎりであったりというものは午前中に売れて、帰りがけにビールをはじめとしたおつまみ類が売れているということがありそうですけれども、その辺りの時間帯による売れ筋の把握ということをされていますか。

○御岳IC担当 私の感覚だけになりますけれども、おっしゃったとおりで、午前中はおにぎり、パン、たまにですけれども、雨が降れば雨がっぱ。でも、午後は明らかに電車待ちで、幸か不幸か、電車の本数が少ないので、帰る方は皆さん外でたむろされているわけです。それで、ここにビールがあるということで、今回、缶チューハイとかも置き始めましたけれども、それで結構買ってくれます。午後は圧倒的にアルコールです。

○橋本委員 その辺りを踏まえた上で、柔軟に売り方をとといいますか、午前中に雨がっぱであったり、天気によって熊鈴であったりを分かりやすくして、午後は帰りがけの方々が必要なものをより売りやすくするという工夫をされると。

○御岳IC担当 工夫というか、一度来てもらえば分かると思いますけれども、みんな目につくと思います。売店みたいにそんなにいっぱい置いているわけではございませんので、インフォメーションセンターの一部を、冷蔵庫が1つと棚が2つなのです。ですから、そこを見れば何があるというのはすぐ分かるのではないかと個人的には思っていますけれども、改造する余地があれば検討させていただきたいと思います。

○橋本委員 ありがとうございます。

あと、午後になると帰りがけの方々は電車の時間に利用が制限されるといいますか、帰りの電車の時間が近づいてくるとどうしても混んでしまうといえますか、そういうことはありますか。

○御岳IC担当 バスで皆さんほとんど帰ってこられるのですけれども、バスは土日に増便を出してくれますけれども、JRさんは土日でも、3時とか4時は別ですけれども、1時間に大体2本なのです。平日はもっと少なくて1時間に1本ぐらいなのです。ちょうど逃した方、乗り遅れた方が30分待ちとかでどうしても時間を潰さないといけませんので、寄ってくれる。もちろん、駅にも待合室はあるのですけれども、食べ物とかおつまみとかアルコールもあるので、好きな方が買っていってくれるという感じですかね。

○橋本委員 そういう方々に電車までの間にアンケートを書いていただくように誘導される

とよろしいかと思えます。

○御岳IC担当 次の課題にさせていただきます。おっしゃるとおりです。

○下村委員長 ほかに何か御質問はございますか。

先ほど、外国人の方が圧倒的に御岳山へ行かれるということでしたけれども、日本人の方はどうですか。溪谷だとか周辺部分。

○御岳IC担当 日本人の方も7、8割は御岳山です。御岳山経由で、例えば日の出山のつるつる温泉とか、まれに大岳に行って奥多摩に行かれる。あと、溪谷と高水三山があるのですが、それが大体2割ぐらいではないかと思えます。

○下村委員長 立ち寄られて、例えばこの近くに何かいいところはありますかとか、地図を求められたりとか、そういう方はあまりいらっしゃらない。

○御岳IC担当 来る方は地図を、こちらはものすごく売っていますので、ただであげているので売れ筋というのはおかしいのですけれども、御岳山マップと御岳溪谷のマップ、高水三山のマップ、関東ふれあいの道が1番から7番まで置いているのですけれども、それが圧倒的に皆さん持っていかれます。こちらからも、これをどうぞということで勧めています。

○下村委員長 御岳の町というか、例えばその周辺の観光のパンフレットとか、そういうものは置いておられたりするのですか。

○御岳IC担当 美術館はもちろんですけれども、青梅市観光協会の会員の方だけなのですが、ラフティングとかカヌーの業者、あとは食べ物屋さんのもも全部置いています。基本的にはいろいろ、種類は80種類ぐらいパンフレットがあります。

○御岳IC担当 ちょっと補足させていただきますけれども、青梅市がつくった御岳溪谷遊歩道マップというものがありまして、そういったものを置いていたりとか、御岳溪谷には商栄会という商店会があるのです。その商栄会さんがつくられた商店会マップというものも置いてございます。

○下村委員長 そういったものの需要はあまりないですか。

○御岳IC担当 あります。それはお店が載っているものです。あと、御岳山と高水三山と関東ふれあいの道です。

○下村委員長 いかがですか。

どうぞ。

○今村委員 駅が無人になったというのは今、私は初めて知ったのですけれども、駅が無人になってしまったということで考えると、そちらの果たす役割はますます大きくなってくる

ような気がするのです。駅の改札を抜けたところで、何かお困りの方はインフォメーションセンターにとかいて看板が出ているみたいな仕掛けはされているのですか。みんなバスのほうに行ってしまうのですね。

○御岳IC担当 バスのところにインフォメがあります。皆さん、バスとトイレなのです。トイレとバス方向はほぼ同じなので、その角にインフォメがありますので、そこでインフォメーションセンターという。

○今村委員 すごく分かりやすいところにありますか。

○御岳IC担当 僕はそう思っています。多分大丈夫だと思います。

○今村委員 その位置が結構大事かなと思っていて。

○御岳IC担当 逆に一等地につくってもらっているのではないかと思います。

○今村委員 そちら様の場合、ぐいぐいいかないというか、すごく控えめな印象を私は持っているのです。スタッフの方たちもお上品な人が多いので、だから、アンケートも増えて素晴らしいなと思ったのですけれども、全体で考えると入館者に対しては0.002%ぐらいで、この前もお声がけをして書いていただいたらどうですかと、去年かおとしぐらいに現地に行ったときにお話しさせていただいたのですけれども、あまり声をかけたりはしていませんみたいな感じだったので、もうちょっとお声がけをするとか、あとは、お金がかかってしまうからあれなのですけれども、お水を自由に飲めるみたいな機械がありますよね。ああいうものを置いておいて、水を飲んでいいる間にお声がけをするとか、そういう何らかの仕掛けがあると本当はいいのかなと感じました。やはりもう少し声を集められると、インフォメーションセンターで用意できるサービスのヒントになるのかなと感じました。

あとは、お土産の売上げが伸びたというのは、私はとてもうれしく思っております。

○御岳IC担当 チーズを推薦してくれた方ですよ。

○今村委員 そうです。ビールに合うつまみを地元のもので乗っけてほしい。

○御岳IC担当 今月もチーズは売れていますよ。

○今村委員 あと、小澤酒造さんで梅酒をつくっていますよね。

○御岳IC担当 あります。ぷらりです。

○今村委員 あれの炭酸系のもは何かないのでしょうか。今、スマホで見る限り瓶のものしかなかったのですけれども、そういうものがちょっと地元オリジナルのワンカップ系のサイズで炭酸のものがあると、氷結果汁のものがあるよりも地元の小澤酒造のものは。

○御岳IC担当 小澤酒造さんのワンカップは置いているのです。右下の。

○今村委員 梅酒ですか。

○御岳IC担当 これは日本酒なのですけれども、これは売れ筋なのです。220円で安いので。

○今村委員 でも、あれは中高年齢層が飲みますよね。

○御岳IC担当 ほとんど中高年齢層です。

○今村委員 若い女の人が飲むようなものがもっとあるといいなと思いました。

お土産のことばかり言ってすみません。

○御岳IC担当 いえ、それは参考になりますので。

○今村委員 お上品な皆さんが多いので、ぜひ攻めの姿勢をお願いします。

○御岳IC担当 どうもありがとうございます。

○下村委員長 いかがですか。

それと、先ほど観察会のようなことを企画されて、5月に星空のものに関しては、秋口の台風の影響があってなかなかできないというのもあると思うのですけれども、それ以外のところはもちろん集落だとかの御紹介などもできなくはないのですけれども、こういうものに関してはいかがですか。インフォメーションセンターということで、あまりこういうものは増やさないというイメージか、あるいはもうちょっとここでも独自に楽しんでもらう工夫をもっとしたほうがいいのかとか、そこはどんなふうにお考えですか。

○御岳IC担当 今、コロナのこういう状況なので、なかなかイベントが打ちにくくなってしまっていて、それは工夫次第でなるべく少人数で密にならないようにしながらやっていたとは思っているのです。特に星空観察会は御岳山でやったのですけれども、やはりどうしても泊まりになってしまっていて、特に宿坊さんは広い部屋が多くて、なるべく一人一部屋ではなくて相部屋にしてくれという要望が結構あるのです。なので、そういったところをどういうふうに改善していくかとか、いろいろ考えながら、今年は秋口というか、12月から3月にかけては一番閑散期になりますので、その辺でうまくやっていきたいなとは思っております。

○下村委員長 観光協会さんそのものはイベントをされているのですか。

○御岳IC担当 いや、今年は全部中止になってしまいました。

○下村委員長 コロナは別として、姿勢としてどんなふうにお考えかということです。

○御岳IC担当 こちらではたくさんイベントを打っています。東京観光財団さんの補助金をフルに使って、月に何個だというぐらい打っておりまして、時間的な合間を縫ってやっけないといけないので、なかなかこっちのほうを増やせるかというところが難しい部分はあるので

すけれども。

○下村委員長 それの一つをここで御紹介されてやられたということですよ。何かもう少し、ここを拠点にそういったものを宣伝したり広げたりとかということはお考えではないのですか。

○御岳IC担当 やはり観光協会と一体でやらせていただいていますので、インフォメもスタッフは2人しかいませんので、なかなか企画から実施までというのは難しいので、いつも観光協会さんの力を借りて一緒にやらせてもらっているというのが事実です。

○下村委員長 もちろんそうだと思うのですけれども、そういう窓口とか受入れの御紹介とかというところをここにワンストップという形で御利用されるというか、あるいは展開するとかということはお考えおられますか。

○御岳IC担当 うちがやっているのですけれども、近くに青梅市の御岳交流センターというものがあるのです。そこも待合室というか、会議室とかがあって、早く来ても休めるので、どうしてもそっちを使ってしまいまして、インフォメーションセンターでも、おととしうちが受けたばかりだったので、知名度を広めるために駅からハイキングというJRのイベントの受付をやってもらったことがあるのですけれども、そうするといっぱい来てしまって、普通の電車の客も来ますし、駅ハイの客も来るということで大変なので、どうしても電車から降りてきてそこですぐに集まってしまうよりは、交流センターのほうが広いというか、受付等々もやりやすい部分があります。その辺はうまく使い分けしていると言ったら申し訳ないのですけれども、そういう形で対応させていただいているのが現状です。

○下村委員長 いや、お考えをお伺いしたかったというか、使い方の問題だと思しますので、伺いたかったということです。

ほかに何かございますか。よろしいですか。

それでは、終了いたします。お疲れさまでした。

(指定管理者退室)

○下村委員長 それでは、評価をお願いします。

(各委員シート記入)

○下村委員長 評価はよろしいですか。

それでは、プレゼンテーションはこれで終わりたいと思います。事務局にお返しいたします。

○三浦課長 皆様、長時間にわたり、ありがとうございます。

それでは、お時間も参りましたので、2日にわたりまして評価委員会をどうもありがとうございました。

今日評価していただきましたものにつきましては、7月29日までにメールで提出をお願いいたします。また、先週の金曜日の評価のものについては、22日までにメールで頂ければと思います。

また、何かお気づきの点、御助言がございましたら、8月7日まで、3つに締切りが分かれますが、ひとつよろしく願いいたします。

2日にわたり、本当にありがとうございました。